

あきまろ 秋麻呂くん 通信



『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

よみがえる古代交流

平成27年7月24日 秋田城跡調査事務所



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、平成26年10月に開催された第29回国民文化祭 シンポジウム「古代秋田に集った人々」の成果をふまえ、秋田城と各地の古代交流について紹介します。



■シンポジウム「古代秋田に集った人々」の様子

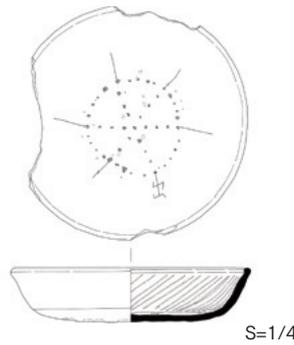


■交流イベントの様子



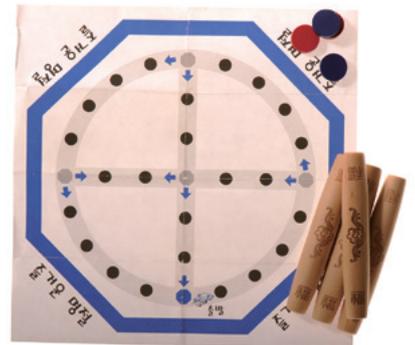
S=1/4

■秋田城政庁北東建物(SB680)出土「列点塼」
せん



S=1/4

■平城京SD5100出土土師器坏
ほじき
(小田2014より)



■現代韓国のユンノリ



よみがえる都との交流

秋田城跡の政庁から出土した塼せん(古代のレンガ)には、規則的な小さな丸い穴が穿ってあります。これと類似する列点れってんは、当時の都であった平城京の出土土器にもみられます。これらの列点は、韓国の伝統的な

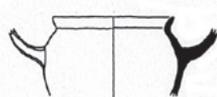
盤上遊戯である「ユンノリ」に類似していることがわかりました。秋田城でも、都や朝鮮半島で遊ばれていた遊戯が存在し、これらの地域との交流をうかがい知ることができます。【小田氏発表より】



よみがえる北陸との交流

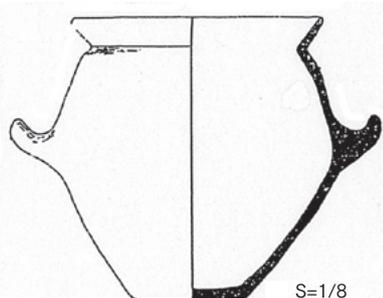


■秋田市後城遺跡出土北陸系土器
左：土師器、中央：須恵器、右：把手付球胴甕



S=1/8

■秋田市後城遺跡出土
把手付球胴甕



S=1/8

■新潟県三角点下遺跡出土
把手付球胴甕(春日2014より)

秋田の古代の土器は北陸地方と類似しています。秋田城に隣接し、秋田城造営に関わった人々が居住していた後城遺跡で北陸系の土器が多く出土しています。特に、後城遺跡出土の把手付球胴甕は、北陸地方に見られる土器の影響を強く受けた形であることが指摘されました。【春日氏発表より】



新潟と秋田の共通する古代氏族名

新潟と秋田城の古代氏族名は、共通するものが多くあります。秋田城出土第16号漆紙文書にみられる「江沼臣」・「高志公」の氏族名がみられ、北陸地方と関連のあることが有名です。その他に、秋田城出土第80号木簡にみられる氏族名「他田(部)」は、新潟県燕市江添C遺跡、「神人(部)」は新潟県長岡市八幡林遺跡、「丈部」は新潟県加茂市馬越遺跡から出土する墨書土器などにみられます。この他、秋田城の出土文字資料にみられる氏族名も新潟県の遺跡から出土する墨書土器や木簡に記される氏族名と共通していることがわかりました。【春日氏発表より】

□□万呂	×□食万呂	□□神人	□□大伴若万呂
(他田粟万呂)	(倉カ)	(倉カ)	(倉カ)
(生マ万潤)	(火長巳足)	(神人倉下吉)	(丈部)
丈マ乙置	□□馬弓	□□人伊大知	□□上□□
□□上□□	□□丈部	□□丈部	□□丈部



■秋田城
第80号木簡



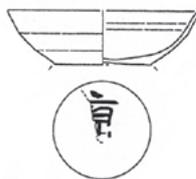
よみがえる関東地方との交流



■秋田城第60次調査(鶴ノ木地区)出土墨書土器「迎カ京」



S=1/5



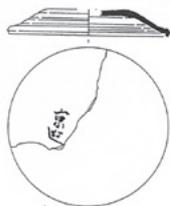
S=1/5

■武蔵国府出土墨書土器「京」(江口2014より)

秋田城は
小さな都
だったんだ!



■秋田城第67次調査(外郭東門付近)出土墨書土器「京迎」



S=1/5

秋田城の外郭東門付近や鶴ノ木地区から出土する土器には、「迎カ京」・「京迎」といった墨書がみられます。このような「京」という文字は、東京都府中市武蔵国府跡からも出土しています。こうした土器は、城柵や国衙の周辺施設の空間を「京」として促え、その「京」に人を向かい入れるために用いたものと考えられます。【江口氏発表より】



なぜ北関東地方との交流が盛んなのか？



「上野國進」

■秋田城第23号木簡

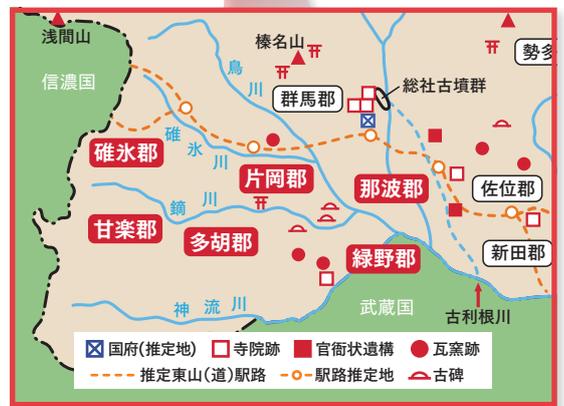


「上野國進南」

■秋田城第24号木簡



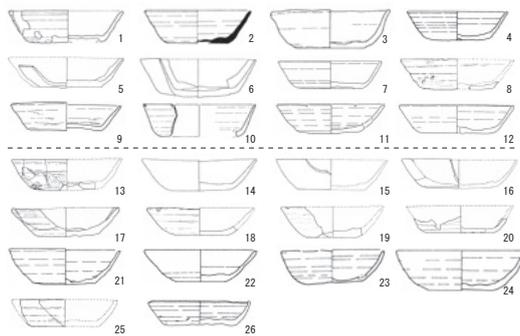
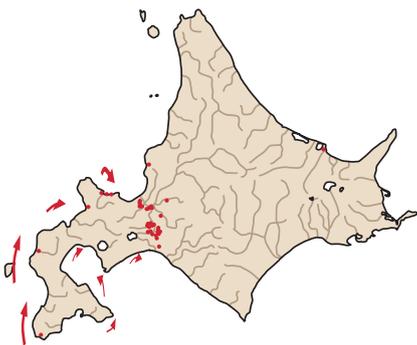
秋田城出土木簡からは、^{こうずけのくに}上野国(群馬県)からの進上木簡が多くみられ、物や人の交流が盛んであったと考えられます。上野国(群馬県)と秋田は一見遠いように感じますが、群馬から栃木・福島・宮城・秋田といういわゆる「東山道」^{とうさんどう}経由ではなく、信濃(長野県)から越後(新潟県)に抜けていわゆる「北陸道」を利用しての可能性が考えられます。特に上野国(群馬県)でも西よりの西部六郡と呼ばれる地域と秋田のつながりが深いと推測されます。この西部六郡^{よほうろくぐん}は窯業生産(須恵器や瓦)や鍛冶工房が盛んであり、こうした地域から秋田に先進的な技術が伝えられた可能性があります。【平川氏発表より】



■上野国西部六郡(平川2014をもとに作成)



よみがえる北方との交流



■8～9世紀の須恵器の出土地点(左図)と出土した秋田市新城窯跡群・古城廻窯跡産須恵器(右図) (鈴木2014より)

北海道まで秋田の土器が流通しているんだね!

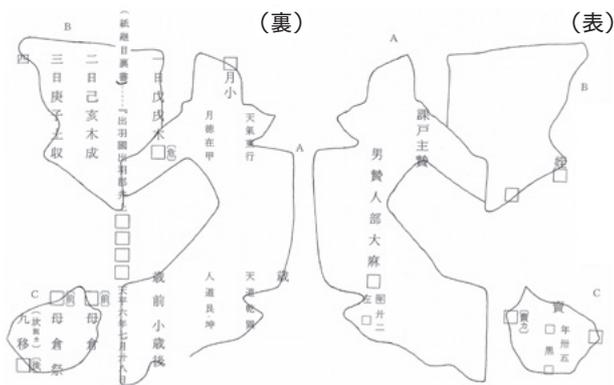


■札幌市C504遺跡出土の秋田市新城窯跡群(大沢窯跡産)の須恵器(札幌市埋蔵文化財センター所蔵)

北海道から律令国家の管理下で生産された須恵器が本格的に流入するのは8世紀後半～9世紀で、北海道西部石狩低地帯で多く出土しています。これらの須恵器は秋田^{しんじょうかまあとぐん}県で生産されたものと考えられ、秋田市新城窯跡群・^{こじょうめぐりかまあと}古城廻窯跡、^{えびさわかまあと}男鹿市海老沢窯跡群のものが確認されます。このことから、日本海ルートを通じた秋田と北海道との活発な交易・交流があったと考えられます。【鈴木氏発表より】



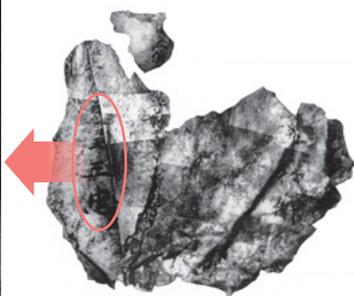
出羽国府としての秋田城



■秋田城第9号漆紙文書積文



■署名部分拡大



■秋田城第11号漆紙文書

積文「
送以解
天平寶字
從五位下行守勲十二等小野朝臣竹田
六位上行介百濟王三忠」

秋田城からは、秋田城が出羽国の国府であったと考えられる文字資料が発見されています。第9号漆紙文書は、表面が戸籍作成のための「計帳」（住民台帳）で、裏面には紙の継ぎ目裏書（文書偽造防止のための署名）があり、「出羽國出羽郡井上」「天平六年」（734）がみられます。秋田城が清水岡に造営された天平5年（733）の翌年に作成した井上郷（山形県庄内地方最上川河口部付近）の住民台帳ということです。裏面には「具注曆」（古代のカレンダー）として再利用されており、これが天平宝字3年（759）のもので、表面の計帳は24年間保存されていたことがわかります。これらの特徴をもつ文書は、出羽国府でしか作成されないものです。

第11号文書には、出羽国の「守」（長官に相当）・「介」（次官に相当）の両方の署名が入った重要な文書です。これは陸奥国・出羽国を統括する多賀城にいた按察使に提出した控えが秋田城に残ったものと考えられます。当時、重要な文書には提出するものと作成機関に留め置く控えの両方に署名するのが慣例だったようです。

このような文書が秋田城から出土するという事は、秋田城が奈良時代に出羽国府であったという有力な証拠となるでしょう。【平川氏発表より】



よみがえる大陸との交流



■復元された古代水洗厠舎



■鉄製鍔釜

秋田城から発見された古代水洗厠舎跡や鉄製鍔釜は、朝鮮半島北部から沿海州付近に8世紀頃にあった渤海国との関係が指摘されます。日本海を挟んだ大陸との交流も秋田城は担っていた可能性が高く、まさに古代交流の結節点であったといえます。

すごいね
秋田城!



引用文献：『シンポジウム「古代秋田に集った人々」-古代交流の結節点・秋田-資料集』（2014年10月）の平川南氏、春日真実氏、江口桂氏、鈴木琢也氏、小田裕樹氏の各発表資料
※秋田考古学協会HPでPDFを閲覧することができます。
<https://sites.google.com/site/akitakougogaku/file>

秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
[TEL]018-845-1837 [FAX]018-845-1318
[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm>
[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp

